

柏崎刈羽原子力発電所6号及び7号炉 指摘事項に対する回答一覧表  
(4条耐震設計方針)

No.	審査日	指摘事項	回答			
			回答状況	回答日	回答資料	回答
1	2017/2/14	耐震設計の際に用いる基準地震動について、大湊側の基準地震動を用いるか荒浜側の基準地震動を用いるか確定できていない領域については、増幅特性の観点も踏まえて工認の段階で考え方を詳細に説明すること。	本日回答		-	評価対象施設の設置位置における地質調査結果や追加実施中の地震観測記録の分析結果等を参照し評価に用いる基準地震動について工認段階で詳細にご説明する。
2	2017/2/14	土木構造物に関して、軟岩サイトとしての地盤物性や材料物性によるばらつきの変動幅の要因について、影響の検討結果を代表性・網羅性を確保した上で工認の段階で説明すること。	本日回答		-	土木構造物の地震応答解析に用いる材料定数に関して、地盤の諸定数も含めたばらつきによる変動幅の適切な考慮について、工認段階でご説明する。
3	2017/2/14	基礎地盤傾斜が1/2000を超えることに対する耐震設計方針に係り、天井クレーンや燃料交換機の滑りや稼働性、地震時の挙動による影響について、詳細設計の時点で説明すること。	本日回答		-	基礎地盤傾斜の影響のうち、天井クレーン・燃料交換機における滑りや地震時の挙動等への影響検討については工認段階にてご説明する。
4	2017/2/14	6, 7号炉のタービン建屋は、先行炉と異なり片側の妻壁が無いことなどで、建屋の上部構造の耐震要素の配置や屋根トラスの拘束条件に偏りがあり、建屋のねじれや水平方向の振動による屋根の鉛直応答の励起等、応答性状が先行炉と異なることが予想されるため、3次元応答の精査を実施すべきと考えられるが、実施の必要性の有無も含めて検討すること。また、タービン建屋の原子炉建屋への波及的影響防止の観点から評価を実施し、その結果を踏まえて計算書等の構成を検討すること。	本日回答		資料1-4	4条-別紙9-26, 28, 29, 32, 33, 35 4条-別紙9-参1-5  タービン建屋の上部構造の妻側片面が開いている等、トラスの拘束条件が対称でないことを踏まえ、今後の詳細設計において3次元応答特性について精査の必要性の有無を含め検討する旨を記載した。 また、上記の検討結果とタービン建屋の計算書等の構成については、工認の段階でご説明する。
5	2017/2/14	地震検知の方法について、緊急地震速報を使用するなど今後も安全性向上に向けて改善に努めること。	本日回答		-	ご指摘の通り、地震検知の方法については緊急地震速報や敷地における大深度の地震観測の活用も含め安全性の向上に向けて継続して取り組む。